

第2学年4組 学級活動指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名

「学級目標の実現に向けて、どのような取組を行うか」

2 学級活動の内容

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

3 題材について

本題材では、学級の課題を解決する取組などを話し合い、実践することを通して、学級として目指す姿の実現や、よりよい集団の形成者として成長することを目指す。そして、学級の課題を解決し、集団として学校生活の質を向上していくことをねらいとしている。

また、本題材では、生徒一人一人が課題を自分事として捉えたり、意識したりできるようにすることが重視されている。そして、集団の形成者としての意識をもち、自主的で実践的な取組ができるようにすることが求められている。

4 内容に関する生徒の実態

学級目標は「全力笑顔」である。その実現のために学級の課題について洗い出したり、学級のよさについて確認しあったりしてきた。また、クラスの一員としての実践事項、天南中生としての目指す姿などを生徒主体で話し合い、決定してきた。5月の体育祭でも「天南ソーラン」の学級オリジナルの振り付けについて話し合い、試行錯誤を重ねながら、最終的な振り付けを完成し、学級の目標だった学年の最優秀賞を獲得した。

一方、日常生活では「3分前着席の徹底」に学年委員が課題意識をもち、積極的に呼び掛けているが成果には結び付いていない。また、指示や呼び掛けを待つ場面が多く、特定の数名の行動を見て動き出す様子が目立っている。提出物などは確実に出せるが、やらなければならないことを、当たり前にするという意識が低い。

このように、集団として自分たちの関心が高い目標に向かう団結力や活動意欲は高いが、やりたくないことや、やらなければならないことへ自分を律して取り組むことができない生徒が少なくない。2年生後学期、3年生と生活していく上で、やらなければならないことを当たり前に行うという点に、個人としても集団としても向きあうことが必要である。

5 指導について

本題材では、学級がよりよい集団になるための取組を考え、実践する。この題材では生徒が主体となって話し合いや解決方法の検討、決定などを行う。その過程では、一人一人が学級を構成する存在であることを意識できるよう、自分の意思や考えをもったり、それに基づいた願いを込めた発案をしたりできるようにしたい。そのために、話し合う前に個で考える時間を十分に設けて、一人一人の意思を明確にした上での合意形成を行うなどの工夫を行う。

6 この題材の目標

- (1) 学級の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。
- (2) 学級の生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。
- (3) 生活上の諸問題を解決し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ることができる。

7 本活動内容の指導計画（総時数 2 時間）

時数	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価の方法と指導の留意点等
		知	思	態	
事前	○学級の日常生活に関するアンケートを行う。			○	・生徒一人一人が、学級の現状やよさと課題を確認している。 (アンケート・記述)
1/2 (本時)	○「よりよいあいさつ」とは、どのようなあいさつのことかについて、話し合う。		○		・生徒が議題を自分事として捉え、思いや考えを記述したり、合意形成をしたりしている。 (ワークシート・記述)
2/2	○「よりよいあいさつ」を続けていくために、どのような手立てが必要かについて話し合う。	○			・自分にできることは何かを、出た意見などを踏まえながら考えている。 (観察・記述)
事後	○決定した解決方法に基づいた取組みを実践する。			○	・学級で決めたことに対して、生徒一人一人が主体的に取り組んだり、責任や意思をもって取り組んだりできたかを、確認している。 (観察・記述)
	○実践を行い、振り返りとして成果や課題について、アンケートや話し合いを行う。		○		・この実践の成果や改善点、学級の変化などについて振り返りながら、自分がどれだけ意思をもって活動できたかを記述している。 (ワークシート・記述)

8 本時の計画

(1) ねらい

よりよい学級生活を送るために、学級の課題【議題】の原因や解決方法、評価方法を日常生活に照らして主体的に話し合い、多様な意見を生かして、合意形成をすることができる。

(2) 展開

過程	学習活動・主な発問等	想定される生徒の学習状況
問題の把握	1 事前アンケートの結果を提示する。 2 議題と学習課題を決定する。 学級の課題とその解決方法は何か？ 【議題】「全力笑顔」につながる、よりよいあいさつとは	・「あいさつや3分前着席が課題だな」 ・「たしかに声が小さい人もいるな」 ・「私はしっかりやっているけどな」 ・「全力笑顔の実現につなげることは難しいな」 ・「よし、みんなでいい方法を考えてみよう」
解決方法等の話し合い・決定	3 決まった「議題」について、全員が取り組める解決方法を話し合う。 ①【共通理解・定義付け】 ・なぜ、「よりよいあいさつ」が必要かについて共通理解を図る。 ・挨拶をされた方は、どうすればよいかを考える。 ・「よりよいあいさつ」の4組としての定義を話し合う。 ②【解決方法】 ・どのようにして、「よりよいあいさつ」「全力笑顔につながるあいさつ」ができるようにするかを考える。 ③【評価方法】 ・いつ、誰が、どのように行うのか。 ・あいさつのいい、悪いの基準は何か。 ④【次時の内容確認】 次回の話し合う内容を確認する。 4 クラスの短期目標と、自分の目標を設定する。 ・いつのあいさつから始めるか。 ・最初に目指す達成度は。 ・実現のために、私は何をするか。	・「互いを認め合うために必要だ」 ・「礼儀として必要だ」 ・「コミュニケーションをとるため必要だ」 ・「しっかりと大きな声で返す」 ・「相手の目を見てあいさつを返す」 ・「笑顔であいさつをすること」 ・「自分の気持ちを相手に届けること」 ・「生活班で朝のあいさつ運動をする」 ・「あいさつ強化日、時間を設定する」 ・「率先してよりよいあいさつをする係を決めて、クラスに広めていく」 ・「学習チェックと同じようにやればいい」 ・「自分たちではチェックが難しい」 ・「授業の前後のあいさつの評価は、先生に協力してもらおう」 ・「声の大小を確かめる方法や基準は」 ・「毎朝の入室するときの『おはようございます』にはこだわりたい」 ・「明日の朝から始めよう」 ・「あいさつをしっかりと返したい」 ・「自分の声で引っ張っていきたい」
振り返り	5 本時の振り返りを記入する。	・あいさつが課題で、それを改善するための方法がわかった。 ・声をしっかり出してあいさつをやろうという気持ちになれた。

= I C T の活用目的= (1) のねらいを十分に達成している姿

指導の目的と手立て	見取りたい生徒の姿
- 生徒一人一人の学級活動への参画意識を高めるために、ロイロノートでの事前アンケートの結果を画面に提示する。 - 生徒が解決すべき課題を自分事として捉えられ、これまでの学校生活を振り返られるように、行事や日々の様子の写真を画面に提示する。	- 事前アンケートの結果を見て感じたクラスの実情や課題などに対して、発言したりうなずいたりしている。 - 出された議題に対して、発言やつぶやきなどで反応や共感などを示している。
- 話し合いを円滑に進めるために、事前に議長団と進行方法や役割を確認しておく。 - 話し合いの形態は全員の顔が見えるように机をコの字型に配置する。 - 全員が自分の考えをもって話し合いに参加できるように、自分で考えたり、周りの人と相談したりする時間も設ける。 - 生徒一人一人の意思を確認しながら話し合いが進むように、決まったことに対して「ロイロノート」で色分けしたカードを提出させ、意思の判別を行う。 - 具体的な評価方法をより多く提案できるように、「5W1H」の観点を提示する。 - 定義付けた「よりよいあいさつ」の実現に近づくために、定義の再確認や、実現可能かを検討するように促す。 - 短期目標を設定しやすくなるように、「何曜日」「何時間目」「週の何日か」などの具体的な設定のヒントを提示する。 - 自分の願いや意思をもって取組に向き合えるように、自分の行動目標を設定する。	- 自分の意見を発言したり、話している内容に反応を示したり、メモを取ったりするなどして参加している。 - 自分の考えや願いなどをもってカードを提出し、意思を表明している。 - 提示された「5W1H」を活用するなど、出された提案から発展させて、評価方法を考えようとしている。 自分の考えをもったり意思を表明したりしながら、合意形成に携わることができている。 (観察・ワークシート)
生徒が学習内容を振り返りやすくするために、分かったことや、自分の思いや考えの変化、行動意欲などを記入するように促す。	本時の学習内容を振り返ることで、自分が分かったことや気付いたこと、自分の行動につなげたいことなどを記述している。